

字幕放送等に係る基本情報

〔注：【N】NHK、【民】民間放送事業者、による回答〕

	項 目	内 容
字幕放送	字幕放送1番組(1h)当たりの経費	<p>【N】約12～30万円（内訳等については、制作会社との契約単価等、契約内容に影響がありますので、回答は差し控えさせていただきます。）</p> <p>【民】</p> <p>○生放送（高速入力方式）は12～20万円程度</p> <p>○収録済み番組は約20～30万円前後</p> <p>ただし、入力方式、番組のジャンル、放送までの時間などによって必要な作業時間や人員が異なり、電車のない深夜や早朝番組への対応となると、スタッフの深夜勤務手当やタクシー代も必要となるため、費用については一概にはいえません。</p> <p>また、下欄に記載のとおり、字幕番組の制作に校正者は欠かせないので、校正スタッフにかかる経費のみを抜き出して算出することはできません。</p>
	// 必要人員	<p>【N】8～9人（うち、校正スタッフは3～5人）</p> <p>【民】</p> <p>○生放送（高速入力方式）</p> <p>外部委託の場合：6人（校正者3人）</p> <p>自社での実施例：5人（校正者2人）</p> <p>○収録済み番組は2～6人</p> <p>実践レベルまで1年以上の訓練を積んだスタッフが可能な限り正確に入力していますが、特に高速入力方式は入力者のみでは誤字や脱字が防ぎきれません。特にニュースの場合、地名や人の名前などの固有名詞の間違いは致命的なミスになりかねず、放送に耐えうる品質を確保するためには、校正者が欠かせません。</p>

	<p>// 作業時間</p>	<p>【N】1人あたり1～6時間（放送時間を除く） 【民】生放送（高速入力方式）：1時間以上（放送時間除く）、収録済み番組：3～8時間程度（放送時間除く。）</p>
	<p>東日本大震災字幕報道に要した経費・人員 ①通常編成時における1週間の経費・人員 ②3月11日～18日までの経費・人員</p>	<p>【N】 ①通常編成時における1週間の経費・人員 【字幕】(経費) 約270万円 (人員) 約220人 【手話】(経費) 約280万円 (人員) 約200人 ②3月11日～18日までの経費・人員 【字幕】(経費) 約530万円 (人員) 約300人 【手話】(経費) 約470万円 (人員) 約390人</p>
	<p>ローカル局の字幕放送設備の対応状況 ①キー局等がネット配信した字幕番組を受信して自局から放送 ②字幕入りの収録番組を自局から放送 ③自局制作生放送にリアルタイム字幕を付与して放送</p>	<p>【N】 ①キー局等がネット配信した字幕番組を受信して自局から放送 対応しています。 ②字幕入りの収録番組を自局から放送 対応しています。 ③自局制作生放送にリアルタイム字幕を付与して放送 対応していません。</p> <p>【民】 ①キー局等がネット配信した字幕番組を受信して自局から放送 概ね対応可能 ②字幕入りの収録番組を自局から放送 概ね対応可能。ただし、字幕入りの収録番組にするには時間と費用が発生する上、自社で作業する場合には対応する設備が必要。また、別データから字幕を送出する場合も対応する設備が必要。 ③自局制作生放送にリアルタイム字幕を付与して放送 キー局と在阪局については対応可能。その他の局については、概ね対応不可能。 設備を導入しても、スタッフの確保や経費の問題など、ローカル社には課題が多く実施は難しいといえます。</p>

	字幕送出設備の価格	リアルタイム字幕を重畳して送出する機器の価格は、冗長性の確保、機器の設置・調整を含め、販売価格で 1100～1200 万円程度（ただし、定価ベースであり、台数等に応じて低廉化が図られる）。それに加えて、字幕番組の制作費が制作時間数に応じて発生。
	テレビ局の収支状況	テレビジョン放送を行う地上民間放送事業者 127 社の当期損益における赤字社数 平成 18 年度 27 社 平成 19 年度 30 社 平成 20 年度 60 社 平成 21 年度 41 社 平成 22 年度 29 社 ※出典 総務省報道資料「民間放送事業者の収支状況」（平成 19 年度～平成 22 年度）
	指針目標達成のために今後必要とされる経費・人員	【N】あくまで概算での見込みですが、少なくとも毎年 10～20%程度の予算増が必要になると考えています。（人員については、制作会社へ業務委託していることから、見込み等の算出は困難です。） 【民】放送事業者をめぐる環境が変化し、番組制作費が右肩上がりとは言えない中で、各社は行政指針の目標達成に向けて字幕番組を増やしていますが、当然それに伴い作業時間や人員、経費も増加することとなり、指針の目標達成には、これらの課題への対応が必要となります。
	字幕入力方式の違い及び各認識率	別紙に記載
解説放送	解説放送 1 番組(1 h)当たりの経費・必要人員・作業時間 指針目標達成のために今後必要とされる経費・人員	【N】 ○解説放送 1 番組(1h)当たりの経費 約 15～30 万円 ○解説放送 1 番組(1h)当たりの必要人員 7～10 人 ○解説放送 1 番組(1h)当たりの作業時間 1 人あたり 6～10 時間（放送時間を除く） ○指針目標達成のために今後必要とされる経費 あくまで概算での見込みですが、少なくとも毎年 15%程度の予算増が必要になると

		<p>考えています。 (人員については、制作会社へ業務委託していることから、見込み等の算出は困難です。)</p> <p>【民】解説放送の制作には、たとえば1時間のドラマ番組に解説を付与する場合、解説放送用の原稿制作に1～3週間程度、その後プレビュー作業や完成台本制作、MAなど、トータルで4週間前後の作業時間が必要です。これらを解説放送用の原稿製作スタッフやナレーター、プロデューサーなどを含め概ね約4～8人のスタッフで行っています。費用は概ね25～40万円程度ですが、作業の多くを社内のスタッフが行い、人件費やスタジオ使用料が発生しない努力をしています。こうした対応も、今後解説放送番組が増えると困難になってくると考えられます。</p>
手話放送	手話放送1番組当たりの経費・必要人員・作業時間 契約・雇用している手話通訳者数	<p>【N】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○手話放送1番組当たりの経費 約25万円 ○手話放送1番組当たりの必要人員 約20人 ○手話放送1番組当たりの作業時間 1人あたり約5時間(放送時間は除く) ○契約・雇用している手話通訳者数 14人 <p>【民】たとえば15分のニュース番組に手話を付与する場合、ベテランの手話通訳者でも事前に読み合わせをして、アナウンサーや出演者の話す速度と調整する作業が1時間程度必要です。刻々と報道内容が変更する夕方のニュース番組や緊急時には十分な時間が取れず、不体裁なく対応することは難しいと考えられます。</p> <p>加えて、手話通訳者の確保も問題があります。手話番組を実施している場合でも長年同じ方をお願いしているケースもあり、手話通訳者は20分での交代が基準とされ、手話通訳者の数そのものが不足している現状を踏まえると課題は多いといえます。</p>

生放送での字幕入力方式の比較

入力方式	概要	認識率（※実用化可能レベルは95%以上）	体制 （1時間番組用）	主な対象番組	利点	欠点	実施比率 （NHK）
スピードワープロ	スピードワープロ社のオペレーターによる独自キーボードによる入力	—	・編集責任1 ・技術担当1 ・オペレータ7 ⑨	ニュース	・事前の準備が少ない	・オペレーターの確保困難 ・入力者の育成	56.8%
リレー	複数の入力者が交代しながら順次分担入力	—	・編集責任1 ・字幕PD1 ・番組PD1 ・技術担当1 ・キーボード担当CP1 ・字幕入力オペレータ3 ・オペレータ管理員1 ⑧ パソコン3台利用	NHK歌謡コンサート とっておきサントナー 紅白歌合戦	・複数人が会話を行う場合であっても字幕付与可能（事前の準備が周到に行える場合）	・人員負担大（入力者の確保）	5.7%
リスピーク	アナウンサーの声を別の人物に復唱させ、その内容を自動認識し、タイプ入力	95%	・編集責任1 ・字幕PD1 ・技術担当1 ・修正担当3 ・字幕キャスター(リズピーク)1 ・サイドリポート担当1 ⑧	大相撲中継 プロ野球中継	・音声認識向上（校正負担減）	・リスピーカーが必要 ・単語登録等の事前準備が必要	37.5%
音声自動(ダイレクト)認識	アナウンサーの声を自動変換	・アナウンサーの原稿読み上げ部分：98% ・自由発話部分：88.7%	・編集責任1 ・字幕PD1 ・技術担当1 ・校正1 ④	MLB中継	・人員負担小	・音声認識率が低い（校正の負担大） ・単語登録等の事前準備が必要	—
ハイブリッド(ダイレクト+リスピーク)	アナウンサーの原稿読み上げ部分をダイレクト方式、それ以外の部分をリスピーク方式により音声認識入力	○ダイレクト方式 ・アナウンサーの原稿読み上げ部分：98% ・自由発話部分：88.7% ○リスピーク方式：95%	・編集責任1 ・字幕PD1 ・技術担当1 ○ダイレクト方式 ・校正1 ○リスピーク方式 ・字幕キャスター(リズピーク)1 ・修正担当1 ・サイドリポート担当1 ⑦	ニュース	・中継リポーターや解説者の発話部分も認識可能 ・スピードワープロ方式より少ない要員で実施	・緊急時には、辞書作成が困難なため、ダイレクト方式のみとなる可能性が高い	—
テキストデータ送出	放送用原稿をあらかじめ字幕化し、タイミングをみて送出する方式。送出自動化も実用化。	—	・字幕送出（手動）1 ①	ニュース	人員負担小（字幕送出1名）	・放送用原稿が必須	—

注) ○数字は方式ごとに必要となる人員の合計数を表す

平成24年3月28日

字幕放送等に係る基本情報について

1. 字幕放送の制作について

字幕放送の制作に必要な作業時間については、一概には言えませんが、1時間の生放送番組を高速入力方式で字幕付与する場合、放送前に単語をパソコンに登録する作業など、事前に1時間以上の準備の時間が必要です。収録済みの番組へ字幕付与する場合は、出演者によって字幕の色を使い分けたり、表示位置を調整したりするのでさらに作業時間が必要です。他にも、番組をデータとして取り込む作業、出来上がった字幕を別のスタッフがプレビューしてチェックし、誤字や脱字、オープンスーパーとのかぶりなどを修正する作業が必要です。これらの作業時間は、出演者の人数、発言やセリフの数、番組の画面のつくりなどでさらに変動します。番組VTRの出来上がりが遅くなり、放送までの時間が限られている場合は、たとえば60分番組を6人で分割して1人10分ずつ担当を割り振るなど、スタッフを増員して作業しており、作業に必要な時間はその状況に応じて大きく異なりますが、1時間番組では概ね3～8時間程度の作業時間が必要です。

生放送番組への字幕付与作業に必要な人員数については、スピードワープロ社の高速入力方式では、入力者1人に対して校正者1人で構成するチームが3チーム（合計6人）で、順番に入力を続けて制作しています。

スピードワープロ社以外の高速入力方式により字幕放送を制作する場合は、番組のジャンルによって異なりますが、たとえば野球中継などでは、入力者1人に対して校正者1人で構成するチームを2チーム、加えてCM入りのタイミングを入力者に伝えるなど、その他の全体状況を監督するADが1人程度の体制で実施している例があります。収録済みの番組への字幕付与は、放送までの時間次第ですが、概ね1時間番組ですと、2～6人で対応することになります。作業自体は、各社の関連会社や外部の字幕制作会社に委託しているケースがほとんどです。生放送番組や収録番組の比率など、その時々編成の状況にもよりますが、キー局では概ね1局につき50人～100人程度が字幕放送の制作にかかわっています。実践レベルまで1年以上の訓練を積んだスタッフが可能な限り正確に入力していますが、特に高速入力方式は入力者のみでは誤字や脱字が防ぎきれません。特にニュースの場合、地名や人の名前などの固有名詞の間違いは、致命的なミスになりかねず、放送に耐えうる品質を確保するためには、校正者が欠かせません。

このように、入力方式、番組のジャンル、放送までの時間などによって必要な作業時間や人員が異なり、電車のない深夜や早朝番組への対応となると、スタッフの深夜勤務手当やタクシー代も必要となるため、費用についても一概には言えませんが、高速入力方式の場合、1時間番組につき約12～20万円程度、収録済みのドラマやバラエティー番組などの場合、1時間番組につき約20～30万円前後が必要となります。前述

の通り、字幕番組の制作に校正者は欠かせないので、校正スタッフにかかる経費のみを抜き出して算出することはできません。

放送事業者をめぐる環境が変化し、番組制作費が右肩上がりとは言えない中で、各社は行政指針の目標達成に向けて字幕番組を増やしていますが、当然それに伴い作業時間や人員、経費も増加することとなり、指針の目標達成には、これらの課題への対応が必要となります。

◎ローカル局の字幕放送設備について

キー局がネット配信した字幕番組を受信して放送する場合は、概ねすべてのローカル局がそのまま字幕を送出することが可能です。自社制作番組や番組販売で購入した番組を放送する場合は、VTRに字幕データを重畳すれば、概ねすべてのローカル局で字幕の送出手続きが可能です。VTRへの重畳に時間と費用が発生する上、自社で重畳する場合には対応する設備が必要となります。また、重畳せずに別データから字幕を送出手続きする場合もありますが、その場合も対応する設備が必要となります。

高速入力方式については在京キー局以外では、在阪局でも実施しておりますが、それ以外の局ではまだ設備の導入に至っておりません。設備を導入しても、スタッフの確保や経費の問題など、ローカル社には課題が多く実施は難しいといえます。

2. 解説放送の制作について

解説放送の制作には、たとえば1時間のドラマ番組に解説を付与する場合、解説放送用の原稿制作に1～3週間程度、その後プレビュー作業や完成台本制作、MAなど、トータルで4週間前後の作業時間が必要です。これらを解説放送用の原稿制作スタッフやナレーター、プロデューサーなどを含め概ね約4～8人のスタッフで行っています。費用は概ね25～40万円程度ですが、作業の多くを社内のスタッフが行い、人件費やスタジオ使用料が発生しない努力をしています。こうした対応も、今後解説放送番組が増えると困難になってくると考えられます。

3. 手話放送の制作について

たとえば15分のニュース番組に手話を付与する場合、ベテランの手話通訳者でも事前に読み合わせをして、アナウンサーや出演者の話す速度と調整する作業が1時間程度必要です。刻々と報道内容が変更する夕方のニュース番組や緊急時には十分な時間が取れず、不体裁なく対応することは難しいと考えられます。

加えて、手話通訳者の確保も問題があります。手話番組を実施している場合でも長年同じ方をお願いしているケースもあり、手話通訳者は20分での交代が基準とされ、手話通訳者の数そのものが不足している現状を踏まえると課題は多いといえます。